ペスタロッチ先生の跡を訪ふ

岸邊福雄

昨年の一月十七日のことでありました。巴里から一夜かゝつてスウヰスのゼヲバに到著しました。それより前各國聯合勞働協會への公務で渡歐して居られた內務省事務官の川西實君が案內をしようとてわざ〳〵打合せに來られて同行されました。氏は御影師範附屬小學校の出、當時同校で敎導者の位置にあつた私は往年の幼兒——今は人の父であり社會の識者である處の氏——によつて導かれるのでありました。

扨ゼヲバに到著したのは朝でしたが、と見れば車窓の外は一面美しい銀世界、しかも積雪一尺餘りといふ大雪でありました。ゼヲバで下車すると其れからホテルまでは馬車があるのですが大雪の爲にかろうじて馬車が動き得るといふ有樣でありました。ホテルは川西君の斡旋で世界の公園スウヰスで聞えた、あのあざやかなコバルトの水の色を心行くほど眺められるようにと、ルソー島といふのをその群靑の水面にうつして居る、繪とも何ともたとへつくせぬ池に面したものでありました。私にとつてはそれ丈でも充分旅の話材となるのでした。このゼヲバから二時間程汽車で行くとエベルトンといふ處があります、此處が彼のペスタロッチ先生が學校を建てゝ廣く各國の學生を集めて敎育をはじめられた處であります。碧瑠璃の水色、あかぬ眺に名殘はつきぬものゝ豫定の行動に從て一憩の後目的地エベルトンに向ふべくステーション指して發足しました。すると時間まで僅かに十五分とのこと自動車もなし今來た馬車は雪の爲に動かぬと云ふし、ただ一つの道、かけあしならば間に合はふといふ事になりました。丁度私は其時少し流感の氣味であつたので總革の重い外套を着用して居りました。降りしきる雪の中をこの出で立ちでいざ、かけあしといふ事になりました。

御影師範の外周九丁、それを四回廻れば三十六丁

卽ち一里を三十六分間にかけあしをさせた私はいつも先頭に立て幼き人の疲勞を氣遣ひながらかけ聲をかけたものでありました其の時の敎師は今世界のスウヰス、ゼヲバの雪中に往年の幼な子今は血氣壯年の川西君の導きとはげましに汗びしよねれになつてかけあしするのでありました。やうやく間に合て汽車に乘りましたが車中の物語りの中にも最も面白かつた事は彼の御影の六甲おろしに凍れる雪の中をかけた昔の敎師と生徒が今また異國に雪を蹴てかけた愉快さでありました。

扨エベルトンに着くと雪は二尺に積てゐてなほ降りしきる雪は大きなぼたんゆきで、支へる傘が重い程でありましたがやがてペスタロッチ先生の銅像の前に立ちました。少年と少女とを左右に如何にもゆたかな態度で椅子にかけられた先生、さながら「燕居たり申申如たり」と云た樣な溫情にみち〳〵た樣子で本をあけて講義して居られる姿。背後の深い雪が一段と壯嚴な感じを添へて居りました。像の下には「人の爲にすべてを、我が爲に何物をも持たず」と記されてありました。これは銅像を建てた人達が先生を頌德した句であります。高さは一丈餘、像は等身よりも大きい樣に見えました。かくて東洋の幼稚園敎育者はかつて敎へた人に導かれて絶え間なく降る雪中に偉大なる先生の像の前にと立ちました。そして外套をぬぎ帽子を取て、先生の高德を慕てはる〴〵此處を訪れた事を申しながら眞紅と純白のチューリップの花一束を恭しく捧げました。傍の深い雪道を通りつゝあつた町の人は此の奇異な光景をあやしみつゝ注目しそしていづれも何事かを話しつゝ去りました。私は先生の夫人のお墓が其の町のいづれかにあるといふ事を聞いて町の人に道ををそはりつゝ墓參しました、それは先生の銅像よりも數町はなれてゐる共同墓地の門をは入るとぢき左の、石塀にはりつけられてあると思ふ樣な三尺四角位な碑文がある、それがペスタロッチ先生をあの大敎育者として成功せしめられた非常なる賢夫人の墓碑でありました。その碑文の大意は

「篤き信仰のある人であつた。そして非常に慈悲の心を持て先生の敎育の事業を晝夜努力して助けられたのであつた。此處にこの高き節操の夫人に敬意を捧げる」といふ樣な事でありました。處がはじめは形が大きいか背が高いかであらうと思てそんなの

を注意してはペスタロッチと云ふ字を讀み歩きましたがなか〳〵見あたらなかつたのです。雪はますます深くなる、寒さは寒し途方にくれた時雪をかいてゐる除雪夫といふ樣な人に出逢たので理を話すとその人夫はわざ〳〵雪道の中を遠まわりして夫人のお墓へ案内してくれました。そこで私共東洋人二人が墓前に恭しく敬禮をするとかの人夫は「あなた方は如何なる人かと」問ひましたから私共は東洋の教育者で、ペスタロッチ先生の德を慕てお參りに來ましたしと答へると人夫は帽子をとつて私達に丁寧に敬禮して去りました、私共は其の質朴さと、今日の參詣の意味を聞いて敬意を拂て行たその飾りなき眞純さをまことに嬉しく感じたのでありました。

私の歐米旅行中ある友人は手紙をよせて「お寺參りはあまりするなよ」と云ふてくれましたが、事實歐洲へ行くとお寺參りをせねば見物する處がないといふ位でありますが其多くは文學藝術に關して新知識を與へられるのであつて、あまりに高崇な念とか確き信仰とかいふ觀念にはふれがたいおそれのあるにもかゝはらず此の雪降りしきるエベルトンに大教育者の跡を訪ひ溫情あふるゝばかりの記念像に對し「人の爲にすべてを、我が爲に何物をも持たず」と云ふ句を讀んだ時は實に無量の嬉しさと恐ろしさの感じを抱いたのでありました。（文責記者）

ぶらんこ

ぶらんこほしい
春の森
ぶらんこ吊つては
ならぬ森

ぶらんこ搖れれば
鳥が飛ぶ
ぶらんことまれば
花が散る

ぶらんこほしい
春の森
ぶらんこ搖れば
春がゆく。

（「れむの搖籃」より）